

奥道町ふるさと文庫 1

奥道湖の漁具・漁法



発刊にあたって

眼前に^{しんじこ}宍道湖を臨む宍道町は、大いなる自然に^{ふうこうめいび}囲まれた風光明眉な地と紹介できましょう。昨今の大きな開発に対し、あえて身近な自然を大切にする宍道の気質が、時代を先取りするかのよう「豊かな自然」、「豊かな心」と結びついています。

この豊かな自然と豊かな心とともに宍道町には宍道湖を利用した産業、来待石を利用した産業、古くからの交通の^{ようしょうち}要衝地という、他の地域には見られない特徴があります。そして、そこから生まれた文化は私たちの生活に大きく関わってきました。

さて、「ふるさと」という言葉と意味があらゆる方面で語られるようになって久しいのですが、宍道町および宍道教育においても、地域で^{つちか}豊かに培われた人間性はより大きな地域へ羽ばたく基礎となるとの考えのもと、「ふるさと宍道町を原点とした人間教育」という言葉を大切にしてきました。

今回のふるさと文庫は豊かな人間性を培うために、豊かな自然、豊かな心、豊かな文化をもつふるさとをより身近に見ていただきたいと^{おもい}の想によって発刊するものです。編集するにあたっては、1)読みやすい 2)内容が正確である。3)手に入れやすいということを考えました。

至らぬ点も多いと思いますが御愛読いただければ幸に存じます。

も く じ

1. 宍道湖の自然と漁業	4
1) 宍道湖の名称と地形	4
2) 宍道湖の自然	5
3) 宍道湖の漁業	7
2. 宍道湖の漁具と漁法	8
1) 定置網（越中網・小袋網、ます網、おだ漁法）	8
2) 刺網（アマサギ網、シラウオ網、セイゴ網、 ボラ網、コイ・フナ網、柴手網）	10
3) その他の漁具（モンドリ、四ツ手網、投網、 シバ漬・ダバ漬、ウナギ釜、竹ポッポ、ノベナワ、エビ釜、 アマサギ搔き、カモトリワク）	14
4) 漁に用いた道具（ウナギカゴ、カンテラ、サンカクアミ、 修理道具）	19
5) 漁具の部分（網と網目、おもり）	21
3. 宍道湖のシジミ搔きと道具	23
4. 宍道湖の舟	25
1) 宍道湖の舟の歴史	25

2) ヒラタ舟	26
3) サンパ舟	27
5. 宍道湖の七珍（シラウオ、アマサギ、冬スズキ、ヨシエビ、 ウナギ、コイ、シジミ）	28
6. おわりに	32
7. 宍道町所有漁具一覧	35



写1 宍道湖旧景（昭和30年代）

1. 宍道湖の自然と漁業

1) 宍道湖の名称と地形

古く『出雲国風土記』(733年)によりますと、宍道湖は中海と合わせて「飮字海」とか、「入海」とか、沿岸の地名をとって呼ばれていたようです。「宍道湖」という名称の文献上の初見は江戸時代の初めの「懐橘談」という書物で、その後も「松江湖」、「碧雲湖」の呼び名がみられますが、当時宍道の地が水陸の交通の要衝だったことから、江戸時代の末から明治時代の初めにかけて「宍道湖」の名前が定着したといわれます。

現在の宍道湖は中海とともに斐伊川水系の下流部をなしており、周囲約50km、面積約80km²で、全国で6番目の規模をもつ湖です。東西に約16km、南北に8.5kmと細長く、最深部は約6mを測ります。

湖へ流れる川は斐伊川が最も大きく、佐々布川、来待川などがあり、流れ出る川は大橋川、天神川、佐田川の3つです。『風土記』の記された奈良時代には「出雲大川」すなわち斐伊川は西方に流れており、「神戸水海」を経て



図1 風土記時代の宍道湖（風土記参究より）

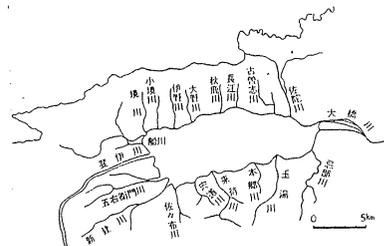


図2 宍道湖に流入する川（宍道湖の自然より）



写2 宍道湖風景

大社たいしゃの南より外海に注いでいたようですが、寛永16年（1639）の大洪水により宍道湖西岸に注ぐ水路に落ちついたといわれます。

現在、水質は海水が逆流するために塩分の混った汽水きすいです。このほどよい塩分のために、宍道湖ならではの魚介類が数多く生息せいそくしていますが、湖周辺の人々の生活にとって大きな恵みとなっています。

2) 宍道湖の自然

宍道湖には豊かな自然を背景に多くの魚類ぎよるい、貝類かいるい、鳥類ちょうるい、こん虫、植物しょくぶつが生息しています。

宍道湖に生きる魚は淡水魚たんすいぎょと汽水魚きすいぎょを合わせて、現在のところ約76種類が確認されています。ただ、これらの魚が一度に宍道湖にいるわけではなく、季節の変化による温度差、塩分濃度、産卵時期によってさまざまな分布を見せます。

季節によって外海から内海へ、
 または内海から外海へ移動するも
 のを回遊性魚かいゆうせいぎょといい、年間をと
 おして宍道湖に住むものを定住性魚ていじゅうせいぎょ
 といいます。回遊性の魚にはスズ
 キ、サヨリ、キス、イトヨなどが
 いますし、定住性の魚にはコイ、
 フナ、シマハゼ、ヌマチチブなどがいます。



写3 宍道湖の白鳥

宍道湖の鳥類は現在のところ168種類が確認されています。これは宍道湖が広大な湖であることや、豊富な魚類に恵まれていることでもあります。環境破壊が少なく、自然が多く残っていることが大きな理由でしょう。

宍道湖はコハクチョウやガン類の南限の越冬地となっており、斐伊川河口部に広がる広大なアシ原や中洲、湿田には多くの珍しい鳥類が住んでいます。

宍道湖の植物は護岸工事や家庭廃棄物の流入などによって大きく減少したといわれますが、それでも場所によっては植生を見ることができます。

湖の周辺ではヨシ、オギ、ススキなどの大形草木植物が、波うち際ではヒメガマ、マコモなどの抽水植物ちゅうすいが、やや深くなるとヒツジグサ、オニビシなどの浮葉植物ふようが、さらに深くなるとクロモ、ヤメギモなどの沈水植物ちんすいが生息しています。

3) 宍道湖の漁業

宍道湖は波がおだやかで漁のしやすい場所です。宍道湖周辺に住む人々は昔から宍道湖で獲れる魚を貴重なタンパク質源としてきたことでしょう。733年（天平5年）にできた『出雲国風土記』にもスズキ、ナヨシなどの名前が記録されています。

漁は時代とともに盛んになり、様々な漁具も考え出されていきました。江戸時代には大橋付近は松江藩の直轄漁場に指定されていたらしく、末次、白瀉両町の漁師が独占権を持っていたといえます。宍道湖七珍といわれる名物料理の1つ「スズキの奉書焼」は松江藩主お好みと伝えられており、当時の上流社会の人々と宍道湖の魚の関わり合いを身近に感じさせてくれます。

古い漁具の歴史はあまりわかりませんが、他の地方の例からみると、投網、朶葉漬、延縄、四ツ手網などは明治以前からあった漁法だったと考えられます。一方、コイやフナの刺し網は明治以降になってから、集魚灯を用いる張り刺し網は昭和に入ってから使われ始めたといわれます。

網の繊維は明治20年頃までは木綿と麻、30年代ごろからは絹製品との併用時代、そして戦後、アミラン、テグスというナイロン製品がまわるようになりました。

現在、宍道湖を代表する漁はシジミ搔きです。シジミは縄文時代から食用とされ、数例の貝塚も見つかっていますが、今では「金になる貝」としてどんどん京阪神方面に出荷されています。

2. 宍道湖の漁具と漁法

1) 定置網

定置網は網を水中に固定したまま漁をするもので、特定の魚を獲るといふより、多くの種類の魚を網に入れる漁法です。宍道湖で見られる定置網には越中網、小袋網、ます網、おだ漁法などがありますが、ます網、おだ漁法などは宍道湖では大がかりな漁法です。

越中網・小袋網

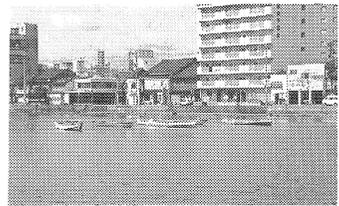
越中網は袋網と呼ばれる類の定置網です。長さが8.5m以上、15.5m以下の袋網を使う場合に越中網といい、長さが8.5m以下のものを小袋網といいます。

袋網は大きなふくろ状の網にカエシがついているもので、水の流に沿って下ってくる魚をとらえます。

松江の大橋川の川中で、船がつながれている光景をよく見かけますが、あれは越中網を仕掛けるためのものです。

ます網

ます網は魚を導く道網と、魚をためかこみ、魚を集めるモンドリの3つ



写4 越中網

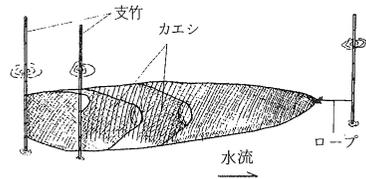


図3 袋網

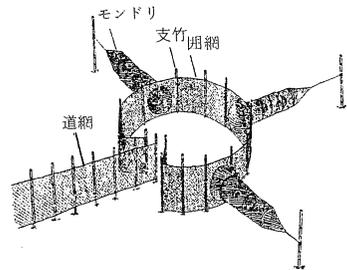
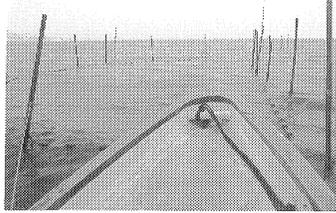


図4 ます網

の部分からなっています。道網は長さ約130mの網で、水中に真直に張り、湖にいる魚をさえぎり、囲網の中に導きます。囲網は周囲約42mの円形に張る網で、道網との接点には大きなカエシがついており、道網をとおってきた魚をためておきます。モンドリは長さ約7mぐらいの筒状の網の中にカエシがついており、魚が少しずつ先端に集まるような仕組みとなっています。モンドリの先端はロープで結んでおきますが、魚がたまとロープをほどき、船に集めます。道網、囲網の固定には竹の柱を使うため、



写5 ます網（漁場）

秋から春にかけて湖面につき出た支竹を見かけます。宍道湖へは昭和22～23年頃に導入されたといえます。

おだ漁法（別名キガカリ）

おだ漁法は湖中に大量の枝を沈め、その枝の中に魚が住みはじめるようになると、その周囲に巻き網を設置し、枝を取り除いた後で中の魚を獲るといふ魚法です。ます網より古くからある漁法で、もともとはモンドリのつかないものでしたが、今では巻き網



写6 ます網（魚を出す）

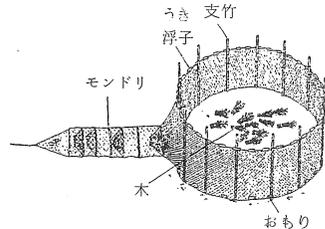


図5 おだ漁法

にモンドリがついています。

2) 刺し網

刺し網にはワカサギ、シラウオ、セイゴ、ボラ、コイ、フナ、ハゼをと獲る網があります。

刺し網にはアンバ（木でできた浮子）や錘の付いた「アンバ付の刺し網」と、竹竿で網を固定する「張り刺し網」の2種類があります。

アンバ付刺し網は網の上面にアンバを等間隔でくり付け、それにカタナワ（肩縄）と呼ばれる太い縄をとおします。下方にはイワナワと呼ばれる縄をとおし、縄と網に鉛や焼物でできた錘をくり付けます。1枚の網だけを使うことはなく、何枚かの網を横つなぎにして湖底または湖中に漂わせるようにして張ります。

張り刺し網はアンバや錘を付けない網で、両側に竹竿を刺して固定

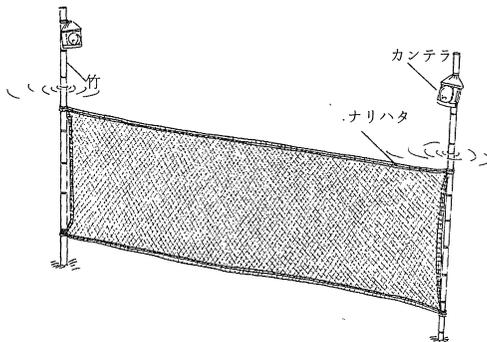


図7 張り刺し網

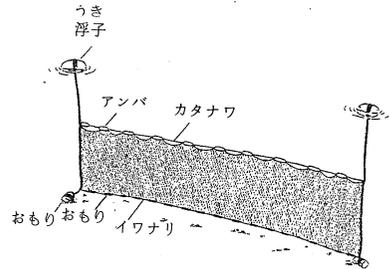


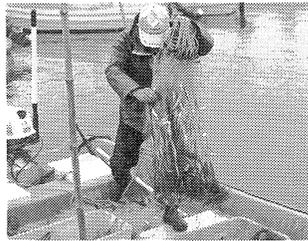
図6 アンバ付の刺し網

させます。網の部分はアンバ付の網と一緒に周辺にナリハタと呼ばれる弛よけの部分があります。張り刺しの網は湖中に網を固定して漁をする場合に用います。

アマサギ（ワカサギ）網

アマサギは穴道湖七珍の1つに数えられる美味しい魚です。産卵は12月から3月にかけてで、盛期の1～2月には斐伊川の河口部に集まります。アマサギ網はこの旬のアマサギを獲るもので、漁期は10月から3月にかけてです。夕方に仕掛けて朝上げます。

網にはアンバ付の網と張り刺し網の両方があります。網目は1尺（30.3cm）のうち50目、45目、42目、40目あるものがあり、魚の成長に合わせて網を変えます。網によるアマサギ漁は大正末～昭和初期より始まったといえます。

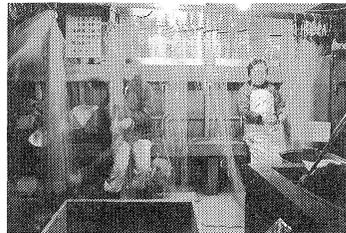


写7 アマサギ網

シラウオ網

シラウオはサケ科の半透明の魚で大きいものは10cm前後にまでなり、漁期は11月から翌3、4月までで、夕方に仕掛けて朝上げます。

シラウオ網にもアンバ付の網と、張り刺し網の両方があります。網目は1寸（約3cm）のうちに10目、9.5目、9目、8.8目、8.5目、8.2目、8目、7.5目、7目、6.5目のものがあり、小さいものは約3mm四方のマス目の網となります。またシラウオ網の場合はアンバ付、張り刺しの両方の網に、弛を修正するナリハタと呼ばれる部分が網の縁に付いていま



写8 シラウオ網

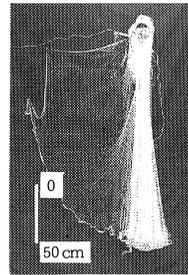
す。網目の2～3個が、ナリハタ1目の長さとはほぼ同じです。

網は湖底にとどくように張りますが、シラウオは幅広い深さにいるために、高さの高い網を用います。1枚の網は高さ約1.6m、長さ約15mで、それを何枚もつないで張りました。宍道湖でのシラウオ網の使用は昭和初期からで、琵琶湖（滋賀県）から導入されたといえます。

セイゴ網

セイゴはスズキの幼魚^{ようぎょ}で、1～2才のものをセイゴ、3才のものを中ハン、4才よりスズキと呼ぶ出世魚^{しゅっせうお}です。

セイゴ網はアンバ付刺し網のみで、網目は1尺のうちに17目、16目、15目、14目あるものがあり、魚の成長に合わせて小さい網目から、大きい網目のものへと変えていきます。1枚の網は高さ約1.6m、長さ約31mで、それを30～40枚つないで湖底に張ります。宍道湖でのセイゴ網の使用は大正末ごろからです。漁期は8～12月で、夕方^{しか}仕掛け朝上げます。

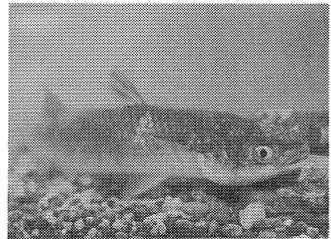


写9 セイゴ網

ボラ網

ボラはノベナワや、他の網に引っかけたものを獲^とっていましたが、近頃は地獄網^{じごくあみ}と呼ばれる三重網^{さんじゅうあみ}でも獲ります。

ボラは水の中ほどにいるため、おもりを軽くし、10枚ほどつなげて湖底より浮かせ、水中に漂^{ただよ}わせます。夕方に



写10 ボラ

仕掛けて朝上げます。

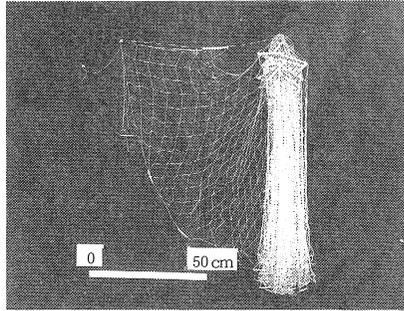
コイ、フナ網

コイ網、フナ網にはアンバ付刺し網と、地獄網（三重網）があります。コイも、フナも一年中宍道湖にいる魚ですが、脂のよくなる11月から3月にかけて獲ります。コイ網はフナ網のほぼ倍の丈です。

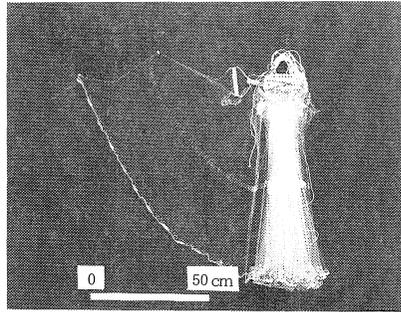
ハゼ網（ゴズ網）

ハゼ釣りは初秋から初冬の大橋川周辺での風物詩ですが、網でも獲ります。

ハゼは湖底にいるために、丈の短い網を5～10枚連ねて、湖底に沈めます。湖底にしっかりと沈めるために、重いおもりを使い、網の両端は支竹で固定します。漁期は宍道周辺で8～9月ごろ、松江方面で10～12月ごろです。1枚の網は高さ約0.75m、長さ約23mで、丈が短いためにナリハタは必要あ



写11 コイ網



写12 ハゼ網

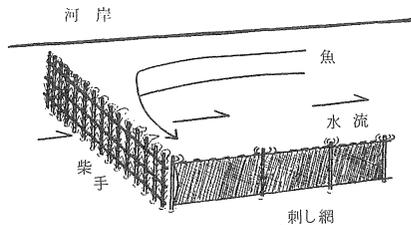


図8 柴手網

りません。

しば て あみ
柴 手 網

大橋川などで見られる漁法です。河川護岸堤防より柴手しばてを設置し、柴手の先より刺し網を流れに沿って固定して、ワカサギ、シラウオをと獲ります。

3) その他の漁具

モ ン ド リ

モンドリとはコイ、フナを獲る漁具です。竹と網でできた道具で、細長い筒状の網に1ヶ所のカエシがついています。モンドリの口に2本、先端に1本の竹柱がついており、それを湖底や、川

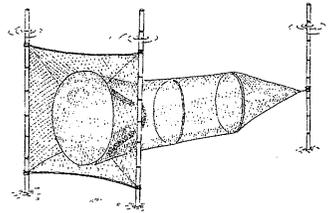


図9 モ ン ド リ

底につき立てて仕掛けます。湖に注く河口の流れに仕掛けますが、主に斐伊川の河口で多く用いられました。道具が簡単のために、3月から6月の出水時には大人から子供までモンドリを使ってコイ、フナを獲りました。

よ で あみ
四 ツ 手 網

四ツ手網は四角形の網の四方から竹木を十文字にわたし、その中央に竹棒をつけたものです。これを水底に沈めておき、魚が入るころ合いを見ては引きあげます。漁

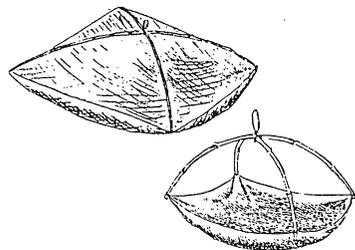


図10 四ツ手網（湖川沼漁略図より）

法としてはサデ網、タモ網のような掬網すくいあみの発達したもので、網具あみぐの中では簡単で、古くから存在したと考えられます。

出雲地方では宍道湖かんどがわと神戸川で知られていますが、宍道湖の四ツ手網漁はほとんど見られなくなりました。

現在、大橋川周辺でコイ、フナの四ツ手網漁が細々と続けられています。

と
投
あみ
網

投網は全国各地で古くから見られる漁具で、海、川、湖のいずれでも利用されてきました。網を円すい形に仕立て、網の先端に「イワ」とも呼ばれるおもりをとり付けます。網の部分の材料は、古くは絹きぬや木綿もめん、麻あさ



写13 投 網

などを使っていましたが、今ではナイロン製品を使います。おもりは古くは鋳物いものや土錘どすいを用いましたが今では鉛製品なまりを主に使います。

船上または岸辺から投げて、円すい形にうち広げます。獲れる魚は主にコイ、フナ、セイゴ、エビなどで、一年をとおして利用することがができます。

づけ
シバ漬、ダバ漬
づけ

シバ漬あるいはダバ漬と呼ばれる漁法は、まきの木たばを束ねて、その中に集まったエビ、ウナギを獲

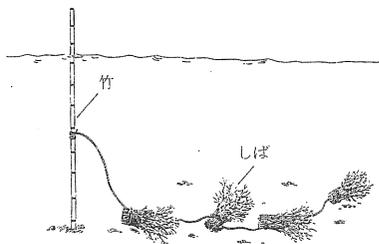


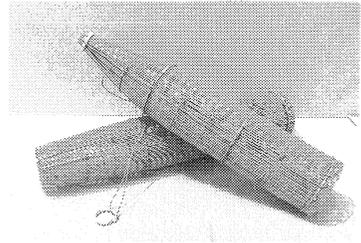
図11 シバ漬漁

る漁法です。古くから宍道湖独特の漁法として知られるもので、トコナワと呼ばれる太い縄に4～7 m間隔でまきの木の束をとりつけ、湖底に沈めます。1縄には20～100の束をつけました。

エビやウナギの入ったところ合いをみて船の脇に束を引き上げ、サンカクアミと呼ばれる三角形の網で受け取ります。獲物は住み家が動くので、しがみついたまま逃げようとしません。

ウナギせん 筥

ウナギ筥はウナギをとるかごぎょぐ籠漁具です。エビ筥と同じように竹ヒゴを細かく編んだもので、長さ約85cm、直径約17cmの砲弾形ほうだんがたをしています。中には2ヶ所のカエシがついており、水中に沈



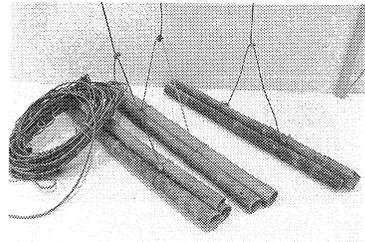
写14 ウナギ筥

めるときは先端を結んでおきますが、ウナギが中に入ると先端をほどいて、中のウナギを取り出します。

トコナワに4尋ひろ(約6 m)間隔で20～30個をとりつけ、湖底に沈めます。夕暮れにつけて、早期にあげます。飼えさはつぶしたシジミで、カエシとカエシの間に入れます。漁期は4～10月頃です。

竹ポッポ

竹ポッポはウナギを獲るための竹製との筒漁具です。長さ約80cm、直径約5cmの節抜きつぎょぐの真竹を2、3本絡んで一



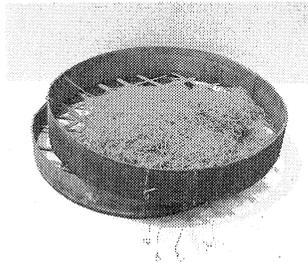
写15 竹ポッポ

組とし、道具をつくります。ウナギは細長い穴を^す住^かみ家とする習性があるために、節のない竹筒の中に入っていきます。中に入ったウナギをとる時は、湖底から水面にのぼした縄をゆっくり引き上げ、竹が水面近くなると竹の両側を手で押えてウナギが逃げないようにします。

トコナワに4尋(約6m)間隔で15~30個ほどをとり付けて、朝、夕のいつでも漬上げしました。漁期は4~9月ごろです。

ノベナワ(延縄)

ノベナワはウナギ、コイ、フナ、ウグイ、ボラなどを獲る^{つりなわ}釣縄とワクでできています。ワクは杉^{すぎ}または桧^{ひのき}でできたもので、直径約55cm、高さ約10cmほどのタライのよ^うな形で、その中にトコナワとエダナワ、^{つりばり}釣針が納まっています。



写16 ノベナワ

トコナワと呼ばれる太い縄約800mに、約7.5m間隔で釣針つきの細いエダナワ(枝縄)を^た垂らします。日暮れにおろして、早朝に上げるもので、^{えさ}餌にはミミズ、エビ、ハチの子を用います。漁期は4~11月ごろです。使用^{しよう}起源は古代にまでさかのぼるといわれます。

ます。

エビ^{せん}釜

エビ釜は主にヨシエビ、手長エビをとる籠漁具です。竹ヒゴを細かく編んだもので、長さ約1m、直径約25cmの



写17 エビ釜(昭和30年頃)

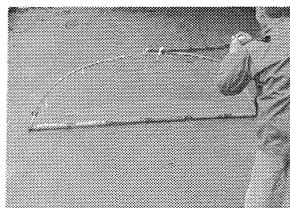
ほうだんがた
砲弾形をしています。中には2ヶ所のカエシがついており、先端は竹
ヒゴをからめています。獲物^{えもの}が中に入ると先端をほどいて出します。

トコナワに4尋^{ひろ}（約6m）間隔で20から30個をとりつけ、中にヌカ
ダangoを入れ、夕方に水中に沈め、朝になると引き上げます。

エビ笥のような漁具は古代^{こだい}から見られた
漁具で、漁期は4～11月ごろです。

アマサギ^か搔き

アマサギ搔きは、産卵のために斐伊川河
口の浅瀬^{さかのぼ}を遡るアマサギを搔くようにして
と獲る道具です。



写18 アマサギ搔き

三日月形の竹ワクに絹や木綿、ナ
イロン製のやや荒い網をつけ、それ
に杉または竹の柄をとりつけます。
川底を遡っていくアマサギを川の
岸、または浅瀬で引っ搔くようにし
てとりますが、どうしても砂を一緒

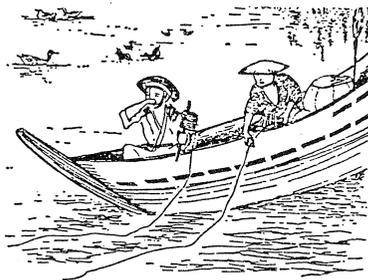
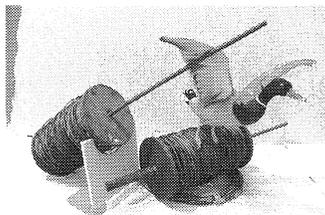


図12 カモトリワク

に引っ搔くために、砂のまじったアマサ
ギとなります。漁期は12月から3月ごろ
にかけてです。

カモトリワク

カモトリワクは鴨^{かも}を獲る道具です。10
月から3月にかけて、モチをつけたカヅ



写19 カモトリワク

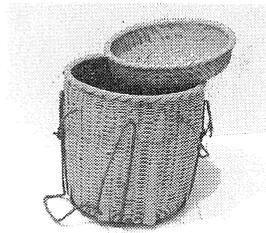
ラをカモトリワクに巻き、^{ふなぶち}船縁に立てておきます。日や月が沈むころに、モチのついたカツラを約300尋（500 m）湖上に流しておき、夜明け前、鴨がひっかかるようにします。カツラを流すことを「モチ流し」ともいいました。

^{ほかく}宍道湖の鳥類捕獲は禁止されていますので、この道具も現在使用禁止です。

4) 漁に用いた道具

ウナギカゴ

ウナギカゴは主に獲ったウナギを入れておくイケスです。高さ約50cm、直径約40cmほどの竹で^あ編んだ^{ながつつがた}長筒形のイケスですが、中に入



写20 ウナギカゴ

れる魚や、用途によって様々な大きさのものも作られたといわれます。

イケスの使用は獲った魚を長く保存するようになってから始まったもので、舟に直接イケスがついているものもあります。ウナギカゴは、獲ったウナギを入れて岸まで運んだり、岸につないでウナギを保存するのに用いました。

カンテラ

カンテラは、夜、魚を引き寄せる集魚灯、あるいは網の位置を示す目印として利用します。高さ約50cm、底の方で約20cm四方のブリキでできたものです。カンテラの四方には窓があいており、その窓



写21 カンテラ付け

にはガラス板がはめ込まれています。中は灯油ランプになっていますが、四方のガラス窓のうち一方が開閉でき、そこから灯油を入れます。

夜、宍道湖面に映るほの暗い明りを見ることがあります。これが、船の艘先^{へさき}や、刺し網の支竹にとりつけたカンテラの明りです。

サンカクアミ (三角網)

サンカクアミは、シバ漬^{づけ}、ダバ漬^{づけ}でエビ、ウナギを獲るときや、竹ポッポでウナギを獲るときに用いる、大きなタモ網です。シバ漬、ダバ漬の場合、枝のかたまりの中にウナギ、エビがい



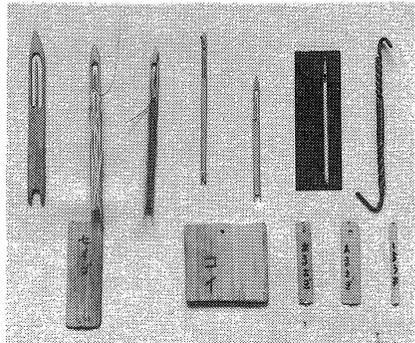
写22 サンカクアミ

ますので、それを水面にあげることなく、大きなタモ網ですくいあげねばなりません。

網は絹^{きぬ}、木綿^{もめん}、ナイロンでできたもので、柄には杉やビニールパイプなどを用います。柄は逆三角形につくり、先端を支え木で固定しており、長さは約1.5mほどになります。宍道湖では最も大きいタモ網といえましょう。

修理道具

網の修理と製作はアグリと呼ばれる竹製の道具と網の目を決めるめいた目板と呼ばれる板でおこないます。



写23 修理道具 (アグリと目板)

アグリは竹製の細長い板を細工

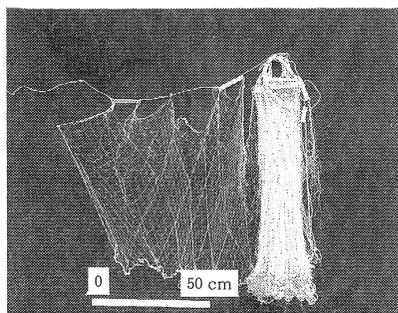
して、中に糸を巻きつけられるようにします。大きいものは長さ13cm、幅1.5cm、小さいものは長さ9cm、幅0.3cmのものがあります。このアグリを使い、シラウオ、アマサギ、コイなどの目板に合わせて網を修理します。

5) 漁具の部分

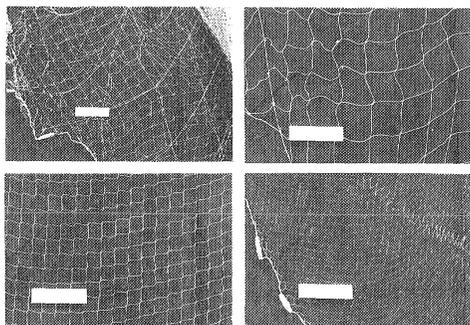
網と網目

網には、多種の魚を獲るための網と、特定の魚を獲るために網目の定まった網があります。前者はとあみ投網、タモ、モンドリ、ます網、ふくろ網などに使われる網で、後者はアマサギ、シラウオ、フナ、コイ、セイゴ、ハゼ、ボラなどに使うさあみ刺し網の網です。

刺し網用の網は魚の成長に合わせて網目を変えていかねばなりませんので、1種類の魚に多くの網を用意することになります。網目は1尺あるいは1寸のうち何目あるかによって分類しますが、シラウオの場合

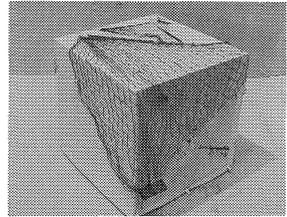


写24 フナ網（地獄網）



写25 1. フナ網 2. コイ網 3. セイゴ網
4. ハゼ網（それぞれ白板は幅10cm）

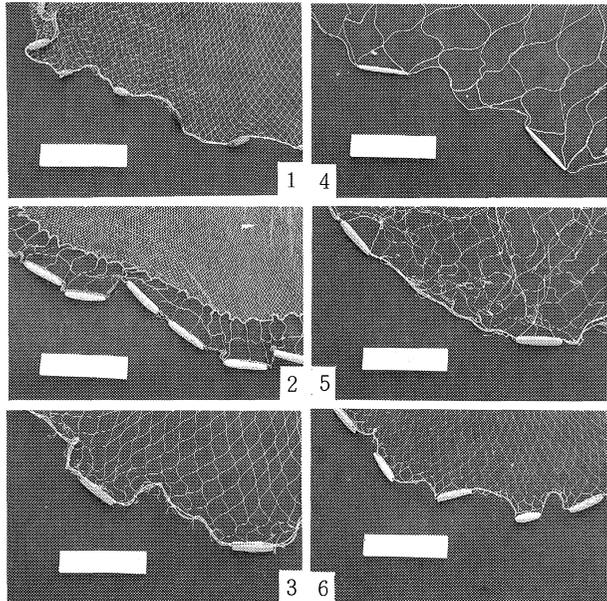
は1寸(約3cm)のうちに10目、9.5目、9目、8.8目、8.5目、8.2目、8目、7.5目、7目、6.5目、の10種類があり、漁師は同じ網目のものを10~20枚は持たねばなりませんので、シラウオだけでも非常に多くの網をもつことになります。



写26 アミの製作

刺し網のように網目が正確で、しかも多量に作らねばならないものは機械織りが普及してから使われるようになりましたので、漁具の歴史の中では新しいものといえましょう。

刺し網用の網の材料は昭和初期には絹、麻を使用していましたが、昭和20年代以降はナイロン系統のアミラン、テグスなどが使われるようになりました。絹、麻は柿シブに浸して使用しましたが、木綿は水を含んで重くなるため



写27 刺し網のおもり (1. アマサギ 2. シラウオ 3. セイゴ 4. コイ 5. フナ 6. ハゼ 白板は幅10cm)

に、ナリハタの部分以外は使用されなかったといえます。

おもり（錘、別名イワ）

アンバ付き刺し網の下方には素焼^{すやき}、^{いもの} 錘物または鉛^{なまり}のおもりを使います。素焼のおもりは布志名^{ふじな}（玉湯町）で焼いたものを利用してきました。

一般的に底に沈める網や大きい網には重いものを、水中に張る網や軽い網には軽くて小さいおもりを用います。

3. 宍道湖のシジミ^か搔きと道具

宍道湖には汽水性^{きすいせい}のヤマトシジミと淡水性^{たんすいせい}のマシジミ、セタシジミがいます。このうち、宍道湖のシジミとして広く食用され、宍道湖^{しっちゃん}の七珍の一つになっているのはヤマトシジミです。



写28 シジミ搔き

ヤマトシジミはシジミガイ科の二枚貝で、北海道から、九州にかけて分布していますが、宍道湖のものが最も有名で、現在、全国シジミ^{ぎょかくりょう}漁獲量の約65%を占めています。また種苗として広島県大田川、京都府^{かすみ うら}由良川、茨城県霞ヶ浦に出荷されています。

シジミは年間を通じて豊富に生息しているうえに、ジョレンと呼ばれるシジミ搔き具と小船があれば一人で操業できることから、今では宍道湖を代表する漁となりました。



写29 ヤマトシジミ

シジミ漁の歴史をみてみると、大正以前



写30 ジョレンの変遷（左から昭和10年代、20年代、30年代、40年代）

の資料はほとんどなく、よくわかりませんが、宍道湖周辺では鹿島町の佐太講武貝塚（縄文時代）や松江市の西川津遺跡（弥生時代）からヤマトシジミが発見されていますので、縄文時代からすでにシ

ジミを獲っていたようです。

昭和10年頃の大橋川の改修により、中海から塩水が流入しやすくなり、外の塩分濃度に近くなったため、シジミの資源も増加したとおもわれます。昭和30年代の初め頃まではこの豊富なシジミも沿岸部で食用されるのみでしたが、交通事情の発達により京阪神に輸送されるようになると漁獲量も爆発的に増加しました。

シジミの獲り方もその需要によって変わってきました。古い段階は素手で獲ったり、トオシで選別していましたが、昭和の初め頃からジョレンを使い始めたといいます。その後、動力船の導入により今のようなシジミ漁が定着しています。



現在、シジミの資源保護のために、ジョ

写31 シジミの選別

レンの網目を大きくしたり、禁漁日を決めるなど自主規制をしています。

4. 宍道湖の舟^{ふね}

1) 舟の歴史

中海、宍道湖は古代以来、水上交通に利用されてきたでしょうが、中世戦国期に飛躍^{ちゆうせい ひやくてき}的な発展をとげたといわれます。宍道にも北津^{きたづ}、中津^{なかづ}、原津^{はらづ}などの地名が残っていますが、これも中世以来の港津を示すもの



写32 宍道湖の舟（昭和10年頃）

といえましょう。

水上交通の発達によって利用されたのが舟です。伝渡船^{てんとせん}という荷積舟、伝馬舟^{てんません}などの補助舟、漁撈運般用のヒラタ舟^{ひらたふね}などがありました。また籠や馬の代りに松江藩^{はまやふね}が早舟を仕立てています。明治20年には汽船会



写33 宍道湖旧景（現在の国道9号、54号分岐点あたり）

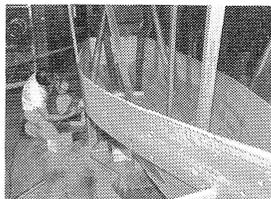
社も設立されますが、明治の末に鉄道が整備されると、宍道湖の水上交通は徐々に衰退していき、昭和49年には最後まで残った伝渡船^{そら}11艘も姿を消しました。

陸上交通の発達によって、水上交通は衰退していきますが、宍道湖漁撈は逆に盛んになっ

ヒラタ舟の製造は底板作り→タナイタ作り→ネオシ作り→底板調整→組み立て→トモイタ取り付け→シメント、カジトコ、フナバリ、トモダイ取り付けの工程でおこないます。

3) サ ン パ 舟

サンパ舟は昭和15年頃に中海を通じて外海から導入された木造船です。底が三角形となることからこの名が付いたとも、波を散らすように進む（散波）からだとも言われますが、これも定説はありません。



写35 サンパ舟の製作
(舟大工土江益雄)

ヒラタ舟に比べて水面での安定性はありませんが、波切りがよく、スピードが出るために、動力が導入されるようになると宍道湖でも主流を占めるようになりました。しかしFRP船が造られるようになると

木造船のサンパ舟も徐々に宍道湖から姿を消していき

ました。
サンパ舟造りは
底板作り→ネオシ作り→底板調整→ネオシ取り付け→トモイタ取り付け→ナカダナ・ワダ

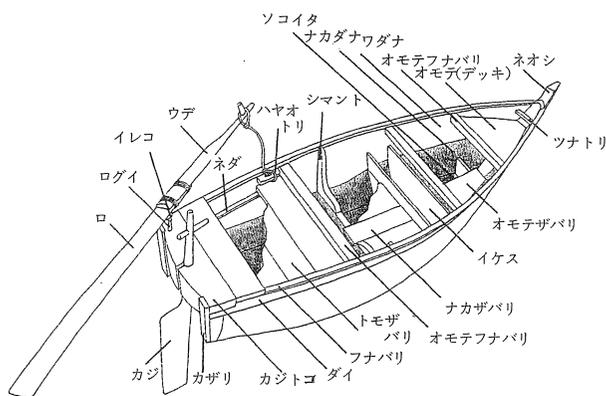


図14 サ ン パ 舟

ナ取り付け→カジトコ取り付け→フナバリ、シマント、オモテデッキ
取り付け→イケス作りの工程でおこないます。

木造船の需要の減少によって、複雑な特殊技術を必要とする舟
大工も今ではほとんど見られなくなりました。

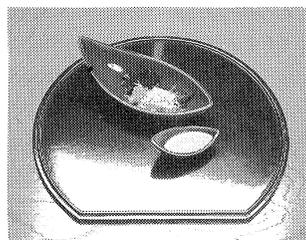
5. 宍道湖の七珍^{しっちん}

宍道湖には豊富な魚介類^{ぎょかいりい}があり、そのうちの多くのものが食用され
ています。その中でも宍道湖を代表するシラウオ、アマサギ、冬スズ
キ、ヨシエビ、ウナギ、コイ、シジミは「宍道湖の七珍」と呼ばれて
います。宍道湖は中海を通じて日本海につながっていますが、この外
海から入って来るほんのわずかな塩分が宍道湖ならではの味覚を生ん
でいるといえましょう。

また「宍道湖の七珍」には含まれませんが、宍道町の八雲本陣^{やくもほんじん}に伝
わる「鴨の貝焼き^{かも かいや}」は古来より鳥料理の逸品^{いっぴん}として知られており、出
雲路の旅情^{さそ}を誘う宍道湖の味覚です。道具^{ぎんみ}を吟味し、自分で味付けす
る楽しみは格別のものです。

シラウオ

シラウオはサケ科の魚で、春告魚ともい
います。毎年、水温の冷える11月から3月
ごろまでが漁期です。シラウオの特徴は透
き通る白さと^{たんぱく}淡泊な味覚で、古くから、
シラウオなら東の霞ヶ浦^{かすみ うら}、西の宍道湖とい



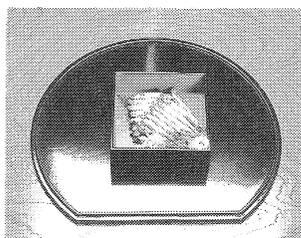
写36 シラウオの刺し身

われていました。その透明感からハゼ科の「シロウオ」と間違われま
すが両者は全く別のものです。

料理方法の例として、吸い物、卵とじ、シラウオめしなどがありま
すが、おどり食いをする食通もみうけられます。

ア マ サ ギ

一般には「ワカサギ」といいますが、そ
の身が特に甘いことから、出雲地方では
「アマサギ」と呼びます。漁期は10月から
2月ごろまでですが、湖の水温の最も下が
る1～2月ごろ、アマサギは卵を抱いて旬しゅん
となります。



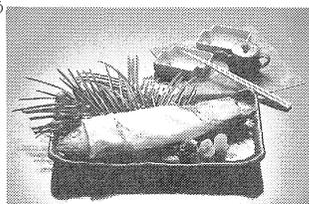
写37 アマサギのつけ焼き

照り焼きをあつあつの御飯の上へのせ、番茶にかけて食べる「柳やなぎか
け」は冬に欠かせぬ風味です。

料理方法の例として照り焼き、柳かけ、茶漬け、天ぷら、南蛮漬なんばんづけ、
昆布巻こぶまきなどがあります。

冬 ス ズ キ

冬ズキを奉書ほうしょに包んで蒸むし焼きにする料理を「ズキの奉書焼き」
といいますが、これは松江藩主松平不味公まつだいらふまいこう
お好みの料理として今に伝わっています。
晩秋から初冬にかけて、水温が冷えるころ
にズキは旬を迎えます。



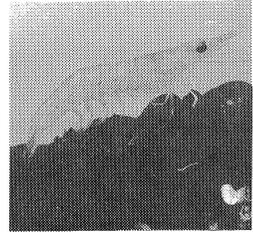
写38 スズキの奉書焼き

調理方法は、全体に塩をふって下味を付

け、水でぬらした奉書紙3枚で包み、天火に入れて焼きます。焼きたての香ばしいま^{もみじ}ま^{やくみ}ま^{しょうゆ}を紅葉おろし、さらしネギの薬味と煮返しの醤油で美味^{おい}しくいただきます。

ヨ シ エ ビ

ヨシエビはクルマエビのなかまで、宍道湖でとれるエビの中で最も美味しいものとして、宍道湖の七珍の一つとなっています。中海で8～9月ごろに^{ふか}孵化したエビは宍道湖に上って成長します。漁期は4月から8月ごろにかけてですが、夏の盛りの7月から8月にかけてが最盛期です。やや赤味がかった半透明の体は約10～15cmほどになります。



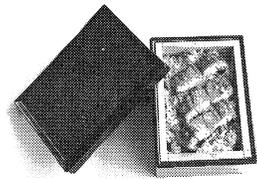
写39 ヨシエビ

料理方法の例として、エビの煮つけ、塩焼き、カラアゲ、天ぷらなどがあります。

ウ ナ ギ

ウナギの故郷は遠く^{おきなわ}沖縄から^{たいわん}台湾にかけての深海で、^{くろしお}黒潮の分流によって運ばれてきたものが、^{なかうみ}中海、^{さだか}佐陀川をとって宍道湖に集まります。

ウナギにはタンパク質^{しぼう}や脂肪のほかにビタミンAなどがたっぷり含まれており、脂のよくなる夏には美味しいエネルギー源となります。



料理方法の例として、^{かばや}蒲焼き、^すきも吸い、

写40 ウナギのかば焼き

骨のカラアゲ、^{うなどん}鰻丼、^{うなじゅう}鰻重、^{やながわなべ}柳川鍋などがあります。

コ イ

その味、姿の良さと大きさから^{たんすいきよ}淡水魚を代表する魚です。一年中とることができますが、冬のコイの味は格別です。身もしまり、^{あぶら}脂ものる11月ごろから2月にかけては^{ゆうが}優雅なコイの姿もより清楚さをまして旬を迎えます。



写41 コイの糸づくり

コイの料理方法には様々なものがありますが、刺身によし、煮てよし、焼いてよしです。糸づくり、^{みそや}味噌焼き、あら汁、あらいなどはその一例です。

シ ジ ミ

宍道湖^{しっちん}七珍として知られるシジミはヤマトシジミです。^{から}殻は三角形で、^{おうかつしよく}幼貝は黄褐色ですが、大きくなると^{こうたく}黒い光沢がでできます。大きなものは幅4 cmほどにもなります。

地元の漁師は「シジミが湧く」といいますが、これはシジミの成長の早さを表現したもので、成長期の5～7月の2ヶ月で2倍に、10月ごろになると約3倍の重さとなります。シジミ搔きは1年中見ることのできる光景ですが、最盛期は4月、5月の頃といえます。



料理方法はまず「シジミのみそ汁」が知られており、つくだ煮として食用することもあります。

写42 宍道湖七珍料理

6. おわりに

宍道湖周辺に住む人々はこの湖のもつ自然環境を利用して衣、食、住や政治、経済、産業に関わる多くの文化を育んできました。その中でも漁業は古くから行なわれた宮^{いとなみ}ですが、今回紹介した漁撈具^{きょうろうぐ}は宍道町在住の中村亀吉^{なかむらかめきち}さん（明治35年生れ）が実際に使用されたものを中心としており、その使用方法や内容も氏の経験談を中心にまとめたものです。そのため、これらの漁具、漁法は中村さんが宍道湖^{かつやく}で活躍した大正初期から昭和50年代にかけての宍道湖漁業を反映しているといえましょう。この中には古代から伝わるものもあれば、近年になって琵琶湖^{びわこ}（滋賀県）などから導入されたものもありますが、明治以前の資料はほとんどなく、漁具の発達史にはあまり触れることができませんでした。また漁以外の文化史についてもあまり記述ができませんでしたので、次の機会を見つけて紹介したいとおもいます。

最後になりましたが、本書の作成にあたっては多くの方に御協力いただきました。感謝申し上げます。

資料提供 勝部正郊、中村亀吉、土江益雄、岡本晋一、佐藤 仁、八雲本陣、長富利助、宍道湖漁協（敬称略）



写43 宍道湖の食文化、鴨の貝焼

（本書の執筆、編集は教育委員会事務局の協力をえて、稲田 信がおこなった。）

宍道湖で食べられる主な魚(宍道を基準として)

魚の種類	魚の獲れる時期 (◎は最盛期)												魚の獲り方と漁具	出世魚の名称			
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月		当年	2才	3才	4才
アマサギ (ワカサギ)	○	○	◎	◎	◎	○											
シラウオ		○	○	○	◎	◎	○										
コイ		○	○	◎	○	○											
フナ		○	○	◎	○	○											
ウナギ	○						○	○	○	○	◎	○					
エビ	○	○					○	○	◎	○	○	○					
セイゴ	○	○	○								○	○	セイゴ (トウネンゴ)	セイゴ (アンザシ)	中ハン	スズキ	
スズキ	○	○	○								○	○					
コノシロ										○	◎						
ボラ									○	○	◎	○		ナイシ(ス)	二サイゴ	三サイボラ	四サイボラ (大ボラ)
ハゼ										○	◎						
シジミ	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○					

7. 穴道町所有漁具一覧

(穴道町菟古館に収蔵しています。)

※アンバアミ→アンバ付の刺し網

ハリアミ →張り刺し網

番号	名称(方名)	材 料	製 作 年 代	備 考	番号	名称(方名)	材 料	製 作 年 代	備 考
1	イワイバタ	木 綿		穴道丸	36	セイゴアミ	テ グ ス	S52.10	
2	"	"		"	37	"	"	" 9	
3	カンテラ	ブ リ キ			38	"	"	" 9	
4	口	木			39	"	"	" 10	
5	"	"			40	"	"	" 10	
6	ビクカゴ	竹			41	"	"	" 9	
7	ホ ギ	木			42	"	"	S50. 9	
8	"	"			43	"	"	" 9	
9	アマサギアミ	絹		アンバアミ	44	"	"	" 9	
10	"	"		"	45	"	"	" 9	
11	"	"		"	46	"	"	" 9	
12	"	"		ハリアミ	47	"	"	" 9	
13	"	"		"	48	"	"	" 8	
14	"	"		"	49	"	"	" 9	
15	"	"		"	50	"	"	" 8	
16	"	"		"	51	"	"	" 8	
17	"	"		アンバアミ	52	"	"	" 9	
18	"	"		ハリアミ	53	"	"	" 9	
19	"	"		アンバアミ	54	"	"	" 9	
20	"	"		"	55	"	"	" 9	
21	アンバ	木		多 数	56	"	"	" 9	
22	セイゴアミ	テ グ ス	S52. 9		57	"	アミラン	S49.11	
23	"	"	"		58	"	"	" 10	
24	"	"	"		59	"	"	" 10	
25	"	"	"		60	"	"	" 10	
26	"	"	S52.10		61	"	"	" 11	
27	"	"	" 9		62	"	"	" 10	
28	"	"	" 10		63	"	"	" 10	
29	"	"	" 9		64	"	"	" 11	
30	"	"	" 10		65	"	"	" 10	
31	"	"	" 9		66	"	"	" 11	
32	"	"	" 9		67	"	"	" 10	
33	"	"	" 9		68	"	"	" 10	
34	"	"	" 10		69	"	"	" 10	
35	"	"	" 10		70	"	"	" 11	

番号	名称(方名)	材 料	製 作 年 代	備 考	番号	名称(方名)	材 料	製 作 年 代	備 考
71	セイゴアミ	アマラン	S49. 10		109	シラウオアミ	テグス		
72	"	"	" 10		110	"	"		
73	"	"	"		111	"	"		
74	"	"	" 11		112	"	"		
75	"	"	" 10		113	"	"		
76	"	"	" 11		114	"	"		
77	"	"	"		115	"	"		
78	"	"	" 11		116	"	"		
79	"	テグス	S50. 8		117	"	"		
80	"	"	" 8		118	"	"		
81	"	"	" 8		119	"	"		
82	"	"	" 8		120	"	"		
83	"	"	" 8		121	"	"		
84	"	"	" 8		122	"	"		
85	"	"	" 8		123	"	"		
86	"	"	" 8		124	"	"		
87	"	"	" 8		125	"	"		
88	"	アマラン			126	"	"		
89	"	"			127	"	"		
90	"	"	S36. 10		128	"	"		
91	"	"	S41. 8		129	"	"		
92	"	"			130	"	"		
93	"	"			131	"	"	S48. 4	
94	"	"			132	"	"	" 4	
95	"	"			133	"	"	" 4	
96	"	"			134	"	"	" 4	
97	"	"			135	"	"	S49.	
98	"	"			136	"	"	S48. 4	
99	"	"			137	"	"	S49. 4	
100	シラウオアミ	"	S50.	タケ 短	138	"	"	S40. 3	
101	"	"		長	139	"	"	S47. 3	
102	"	"		"	140	"	"	" 3	
103	"	"		"	141	"	"	S50. 2	
104	"	"		"	142	"	"	" 2	
105	"	"		"	143	"	"	" 2	
106	"	"		"	144	"	"	" 2	
107	"	テグス			145	"	"	S52. 2	
108	"	"			146	"	"	S50. 2	

番号	名称(方名)	材料	製作代	備考	番号	名称(方名)	材料	製作代	備考
147	シラウオアミ	テグス	S52. 2		185	シラウオアミ	テグス		ハリアミ
148	"	"	" 2		186	"	"		"
149	"	"	" 2		187	"	"		"
150	"	"	S53. 4		188	"	"		"
151	"	"	S51. 1		189	"	"		"
152	"	"	S50. 1		190	"	"		"
153	"	"	S51. 1		191	"	"		"
154	"	"			192	"	"		"
155	"	"	S58.		193	"	"		"
156	"	"	S41. 3		194	"	"		"
157	"	"	S50. 1		195	"	"		"
158	"	"	" 1		196	"	"		"
159	"	"	" 2		197	"	アミラン		"
160	"	"	" 2		198	"	"		"
161	"	"	" 1		199	"	"		"
162	"	"	" 1		200	"	"		アンバアミ
163	"	"	" 2		201	"	"		"
164	"	"	S52. 2		202	"	"		"
165	"	"	S50. 2		203	"	テグス	S44. 4	"
166	"	"	S53. 4		204	"	"		"
167	"	"	S54. 2		205	"	"		"
168	"	"	" 2		206	"	"	S42. 4	"
169	"	"	S52. 3		207	"	"	S39. 2	"
170	"	"	S58.		208	"	"	S42. 3	"
171	"	"	"		209	"	"	S44. 4	"
172	"	"	"		210	"	アミラン	S39. 4	"
173	"	"	"		211	"	"		"
174	"	"	"		212	"	"		"
175	"	"	S54. 1		213	"	"		"
176	"	"	S42. 3	アンバアミ	214	"	"		"
177	"	"		ハリアミ	215	"	テグス	S42. 3	"
178	"	"		"	216	"	"	" 3	"
179	"	"		"	217	"	アミラン		"
180	"	"		"	218	"	テグス		"
181	"	"		"	219	"	"		"
182	"	"		"	220	"	"	S47. 3	"
183	"	"		"	221	"	アミラン		"
184	"	"		"	222	"	テグス		"

番号	名称(方名)	材料	製作	備考	番号	名称(方名)	材料	製作	備考
223	シラウオアミ	テグス		アンバアミ	261	シラウオアミ	絹	S10代	
224	"	"	S44. 4	"	262	"	"	"	
225	"	アマラン		"	263	"	"	"	
226	"	"		"	264	"	"	"	
227	"	"		"	265	"	"	"	
228	"	"		"	266	"	"	"	
229	"	"	S40. 3	"	267	"	"	"	
230	"	"	" 3	"	268	"	"	"	
231	"	絹	S30.	ハリアミ	269	アマサギアミ	"	"	
232	"	"	"	"	270	"	"	"	
233	"	"	"	"	271	"	"	"	
234	"	"	"	"	272	"	"	"	
235	"	"	"	"	273	"	"	"	
236	"	"	"	"	274	"	"	"	
237	"	"	"	"	275	"	"	"	
238	"	"	"	"	276	"	"	"	二つで1組 竹を使用
239	"	"	"	"	277	"	"	"	"
240	"	"	"	"	278	"	"	"	"
241	"	"	"	"	279	"	"	"	"
242	"	"	"	"	280	"	"	"	"
243	"	"	"	"	281	"	"	"	"
244	"	"	"	"	282	"	"	"	"
245	"	"	"	"	283	"	"	"	"
246	"	"	"	"	284	"	"	"	"
247	"	"	"	"	285	"	"	"	"
248	"	"	"	"	286	"	アマラン		
249	"	"	"	"	287	"	"		
250	"	"	"	"	288	"	"		
251	"	"	S10代	"	289	"	"		
252	"	"	"		290	"	"		
253	"	"	"		291	"	"		
254	"	"	"		292	"	"		
255	"	"	"		293	"	"		
256	"	"	"		294	"	"		
257	"	"	"		295	"	"		
258	"	"	"		296	"	"		
259	"	"	"		297	"	"		
260	"	"	"		298	"	"		

番号	名称(方名)	材料	製作年代	備考	番号	名称(方名)	材料	製作年代	備考
299	アマサギアミ	アミラン			337	アマサギアミ	絹		〃
300	〃	〃			338	〃	アミラン		長
301	〃	〃	S10年代		339	〃	〃		〃
302	〃	〃	〃		340	〃	〃		〃
303	〃	〃	〃		341	〃	〃		短
304	〃	〃	〃		342	〃	〃	S 45. 2	〃
305	〃	〃	〃		343	〃	〃		〃
306	〃	〃	〃		344	〃	〃	S 43.	〃
307	〃	〃	〃		345	〃	〃	〃 1	〃
308	〃	〃	〃		346	〃	〃	S 45.	〃
309	〃	〃	〃		347	〃	〃	〃	〃
310	〃	〃	〃		348	〃	〃	S 44.	〃
311	〃	〃	〃		349	〃	〃	S 45.	〃
312	〃	〃	〃		350	〃	〃	〃	〃
313	〃	〃	〃		351	〃	〃	〃	アンバアミ (短)
314	〃	〃	〃		352	〃	〃	S 48. 2	〃
315	〃	〃	〃		353	〃	テグス	S 49. 3	〃
316	〃	〃	S 43.	アンバアミ	354	〃	絹糸		〃
317	〃	〃	S 48.	〃	355	〃	〃		〃
318	〃	〃	S 44.	〃	356	〃	〃		〃
319	〃	〃	S 43. 2	〃	357	〃	〃		〃
320	〃	〃	〃	〃	358	〃	〃		〃
321	〃	〃	〃	〃	359	〃	〃		〃
322	〃	〃	S 41. 1	〃	360	セイゴアミ	アミラン		アンバアミ
323	〃	〃	S 43. 1	〃	361	〃	〃		〃
324	〃	〃	〃	〃	362	〃	〃		〃
325	〃	〃	〃 1	〃	363	〃	〃		〃
326	〃	〃		短	364	〃	〃	S 36. 10	〃
327	〃	絹		〃	365	〃	〃		〃
328	〃	〃		〃	366	〃	〃		〃
329	〃	〃		〃	367	〃	〃	S 37.	〃
330	〃	〃		〃	368	〃	〃		〃
331	〃	〃		〃	369	〃	〃	S 36.	〃
332	〃	〃		〃	370	〃	〃	〃 10	〃
333	〃	〃		〃	371	〃	〃	〃 10	〃
334	〃	〃		〃	372	〃	〃	〃	〃
335	〃	〃		〃	373	〃	〃	S 20年代	〃
336	〃	〃		〃	374	〃	〃	S 36.	〃

番号	名称(方名)	材料	製作年代	備考	番号	名称(方名)	材料	製作年代	備考
375	セイゴアミ	アミラン	S37. 5	アンバアミ	413	セイゴアミ	アミラン	S28. 10	アンバアミ
376	"	"		"	414	"	"		"
377	"	"		"	415	"	"		"
378	"	"		"	416	"	"	S28.	"
379	"	"		"	417	"	"	"	"
380	"	"	S36. 10	"	418	"	"		"
381	"	"		"	419	"	"		"
382	"	"		"	420	"	"		"
383	"	"	S37. 10	"	421	"	"	S28. 9	"
384	"	"		"	422	"	"		"
385	"	"	S37. 11	"	423	"	"		"
386	"	"		"	424	"	"	S28. 10	"
387	"	"		"	425	"	"		"短
388	"	"		"	426	"	"		"
389	"	"		"	427	ハゼアミ(ゴズ)	テグス	S57.	"
390	"	"		"	428	"	"	"	"
391	"	"		"	429	"	"		"
392	"	"	S36.	"	430	"	"		"短
393	"	"		"	431	"	"		"
394	"	"	S37.	"	432	"	"		"
395	"	"	S36. 10	"	433	"	"		"
396	"	"	S37. 10	"	434	"	"		"
397	"	"	S36. 9	"	435	"	"		"
398	"	"		"	436	"	"		"短
399	"	"		"	437	"	"		"
400	"	"		"	438	"	"		"
401	"	"		"	439	"	"		"短
402	"	"		"	440	"	"		"
403	"	"		"	441	"	"		"
404	"	"		"	442	"	"		"
405	"	"		"	443	"	"		"
406	"	"		"	444	"	"		"短
407	"	"		"	445	"	"		"短
408	"	"		"	446	"	アミラン	S54.~	"
409	"	"		"	447	"	"		"
410	"	"		"	448	"	"		"
411	"	"		"	449	"	"		"
412	"	"	S28. 10	"	450	"	"		"

番号	名称(方名)	材料	製作年代	備考	番号	名称(方名)	材料	製作年代	備考
451	ハゼアミ(ゴズアミ)	アミラン	S54.~	アンバアミ	489	シラウオアミ	絹 糸		ハリアミ
452	"	"	"	"	490	"	"		"
453	"	"	"	"	491	セイゴアミ	アミラン		アンバアミ
454	"	"	"	"	492	アマサギアミ	"		ハリアミ
455	"	"	"	"	493	タケポッポ	竹	S50代	2本がらみ
456	"	"	"	"	494	"	"	"	"
457	フナアミ	"	48~50	"	495	"	"	"	"
458	"	"	"	"	496	"	"	"	"
459	"	"	"	"	497	"	"	"	"
460	"	"	"	"	498	"	"	"	"
461	"	"	"	"	499	"	"	"	"
462	"	"	"	"	500	"	"	"	"
463	"	"	"	"	501	"	"	"	3本がらみ
464	"	"	"	"	502	モンドリ	竹、木綿	"	
465	"	"	"	"	503	"	"	"	
466	"	"	"	"	504	"	"	"	
467	"	"	"	"	505	"	"	"	
468	"	"	"	"	506	"	"	"	
469	"	"	"	"	507	"	"	"	
470	"	"	"	"	508	"	"	"	
471	"	"	"	"	509	"	"	"	
472	"	"	"	"	510	"	"	"	
473	"	"	S 48. 1	"	511	"	"	"	
474	"	"	"	"	512	カンテラ	フリキ ガラス	S40年代	
475	"	"	" 1	"	513	"	"	"	
476	"	"	"	"	514	"	"	"	
477	ボラアミ	"	"	"	515	"	"	"	
478	"	"	"	"	516	"	"	"	
479	"	"	"	"	517	"	"	"	
480	"	"	"	"	518	"	"	"	
481	"	"	"	"	519	"	"	"	
482	"	"	"	"	520	"	"	"	
483	"	"	"	"	521	"	"	"	
484	"	"	"	"	522	"	"	"	
485	シラウオアミ	絹 糸		ハリアミ	523	"	"	"	
486	"	"	"	"	524	"	"	"	
487	"	"	"	"	525	"	"	"	
488	"	"	"	"	526	アカトリ	木	S35	舟の水掬具

番号	名称(方名)	材料	製作年代	備考	番号	名称(方名)	材料	製作年代	備考
527	エビセン	ナイロン 針	S50年代		565	エビセン	竹	S56.	
528	イカシ	綿糸、針金	S20年代		566	"	"	"	
529	カモトリワク	木	"		567	"	"	"	
530	"	"	"		568	マスアミ	ナイロン	S55.	
531	"	"	"		569	コイアミ	麻	S7	
532	"	"	"		560	"	"	"	
533	"	"	"		571	"	"	"	
534	ジョレン	番線、竹	S10年代		572	フナアミ	網	"	
535	"	鉄、杉	S20年代		573	"	"	"	
536	"	鉄	S30年代		574	トアミ	"	S5	
537	"	"	S40年代		575	"	"	"	
538	アライオケ	木	大正時代		576	"	絹	"	
539	アマサギカキ	絹網、竹	S50年代		577	"	"	"	
540	オモリ	焼物	S40年代		578	ウナギカゴ	竹	S10	
541	アマサギアミ	絹	S23. 12	アンバアミ	579	エビカゴ	"	S50.	びわ湖より
542	"	"	"		580	"	ビニール		"
543	"	"	S 15. 12		581	"	"		"
544	"	"			582	"	"		"
545	"	"	S 17.		583	"	"		"
546	"	"	S 14. 1		584	カモノハクセイ			
547	"	"	S 10. 11		585	シバダモ	木	S50年代	
548	"			ハリアミ	586	ダバツケ	マキ	S60年代	
549	"			"	587	"	"	"	
550	"			"	588	ヒラタブネ	ひの木	S61. 8	土江益雄作
551	"			"	589	サンバブネ	"	S61. 9	"
552	"			"	590	フナダイクドウグ			一式
553	"			"	591				
554	エビカゴ	ビニール	S58.	びわ湖より	592				
555	エビセン	竹	S60		593				
556	"	"	S56.		594				
557	"	"	"		595				
558	"	"	"		596				
559	"	"	"		597				
560	"	"	"		598				
561	"	"	"		599				
562	"	"	"		600				
563	"	"	"						
564	"	"	"						

宍道町ふるさと文庫 1

宍道湖の漁具、漁法

1989年 3月31日 第一刷発行

1995年 3月31日 第五刷発行

発 行 宍道町教育委員会
八東郡宍道町大字昭和 1 番地

印 刷 柏木印刷有限公司
松江市国屋町452-2

